

The Significance and Issues on Short term Study Abroad in Japan Program : Perspectives Arising from Student' s Questionnaires

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 堀井, 恵子, 高橋, 桂子, 難波, 房枝, 矢野, 和歌子, 野村, 琴菜 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1174

〔研究論文〕

短期ジャパンスタディプログラムの意義と課題

—受講生のアンケートから—

The Significance and Issues on Short term Study Abroad in Japan Program
: Perspectives Arising from Student's Questionnaires

堀井 恵子・高橋 桂子・難波 房枝
矢野 和歌子・野村 琴葉

キーワード：短期プログラム、実践と研究のPDCA、教室内外の有機的相互作用、
フォトランゲージ、日本語コミュニケーション力

1. 研究背景

日本学生支援機構(2018)によると、平成29年5月1日現在の外国人留学生数は267,042人で、前年比11.6%増、5年前の平成24年の161,848人と比較すると、この5年間で10万人以上増加している。また、日本学生支援機構(2011)(2018)によれば、日本滞在期間が1カ月未満¹⁾の留学生は、平成21年度の2,818人から、平成28年度には13,420人と大幅に増加している。グローバル化に伴う留学の多様化に合わせ多くの学生を短期間で受け入れられる短期プログラム²⁾は、今後も増加していくことが予想される。

武蔵野大学では、「日本に興味を持つ海外の人々に日本をより理解してもらうために日本でしかできない学びを提供する」という目的のもとMUSASHINO JAPAN SUMMER PROGRAM(以下MJSP)が企画運営されてきた。MJSPの特徴として、地域のNPOボランティア団体や学部生の授業などと連携し、課外活動と日本語コミュニケーションの授業をつなぐ、つまり、教室外の活動・体験から得られる学びと教室内の学びを相互に有機的に関連づけることで日本語コミュニケーション力を活性化することを目指した短期の日本学習プログラムであるという点が挙げられる。具体的な活動には、教室外の活動・体験から得られる学びと教室内の学びをつなげるため「フォトランゲージ³⁾」の手法を応用したアウトプット中心の活動を日本語学習に取り入れている。MJSPにおけるフォトランゲージは、受講生個人が教室内外で面白いと思ったことや新たな発見だと感じたものを個人のスマートフォンやデジタルカメラで写真に収め、その写真の内容について授業内で発表するという活動で、どの日本語レベルのクラスでも対応できる活動である。

短期プログラムに焦点を当てた研究の多くは、プログラムの枠組みに関する報告(磯野・近藤・

宮原 2016) や、実施内容とその課題の報告(藤森・宮城・中村・荒川 2013)にとどまっているが、教室内外をつなげた短期プログラムの研究はまだ見当たらない。

2015年度から新たに始まった MJSP においては、プログラムの実践とともに 2016年度から、プログラムの意義を図り次年度の改善を目的とした PDCA による研究を続けている。2016年度は、MJSP2016 への参加が受講生に与えた意識変容について調査分析し、その結果、①学習理由の具体化、②自己有能感、③自律性というカテゴリーに学習者の変化が見られた。また、改善点として、日本人学生との接点の場をより効果的に設置し双方の学びとすることや、課外活動とのより強い連携、そして、調査の質問項目の検討などが挙げられた(野村・ケッチャム・高橋・難波・堀井 2017)。2017年度は、2016年度の課題を踏まえた上で、短期プログラムならではの意義を問い直し、プログラムのさらなる改善につなげることを目的とした研究を行った。その結果、MJSP2017の受講生の多くは、双方向性のある学習方法へと志向が変化したことと、コミュニケーション力に自信を得たと認識していることが確認された(野村・高橋・難波・矢野・堀井 2018)。野村他(2018)では、目標言語環境での課外活動との連携を含めたアクティブラーニングが、受講生が日本語コミュニケーション力を核に自律性や自己有能感を得られる機会となったことを示唆しており、ここにプログラムの意義があると結論づけた。ここでは、日本人学生との交流、フィードバックの方法を改善点として挙げ、研究としては質問項目の再検討、課外活動との連携の成果を図る方法を課題とした。

短期プログラムのコースデザインには社会や学習者、そして、プログラムを支える関係機関の変化などもあり、常に、振り返りと改善を繰り返す実践と研究の PDCA が重要と考えてきた。

2. 目的

これまでの研究から、MJSP への参加が受講生の意識に変容をもたらすこと、また、双方向性のあるアクティブラーニングが、受講生の自律性や自己有能感獲得の機会となることが明らかとなった。しかし「教室外の活動・体験から得られる学びと教室内の学びが有機的相互作用となることを目指した短期の日本学習プログラム」として、フォトランゲージを軸とした教室内外の連携が受講生の日本語コミュニケーション力や自信に寄与したかについての検証は行っていない。

そこで本研究では、教室外の活動・体験と、教室内の活動による学びの相互的な関連づけを目指して行ったフォトランゲージという手法を軸に、学習効果を高めるようデザインしたコースの実施が、短期プログラムの受講生に与えた効果を、MJSP 2018 受講生へのアンケート結果から検証する。

3. 研究方法

3-1. プログラムの概要

MJSP2018 は 7 月の 19 日間⁴⁾、平日の午前レベル別の日本語学習、午後に課外の体験学習というスケジュールで実施された。受講生の人数は 38 名、J-CAT のスコアは 41 ~ 312 で、レベル別に 4 クラスが開講された。

午前の日本語クラスは、タスクベースト・ランゲージ・ティーチング(以下 TBLT) シラバス

による活動と合わせ、前年度までと同様「フォトランゲージ」を応用したアクティブラーニングを主軸に取り入れた。「フォトランゲージ」は初級から上級までそれぞれの日本語能力に応じて、画像をリソースに自己の経験を他者と日本語で共有する双方向型の活動で、受講生が日本に来てから個人のスマートフォンやデジタルカメラで撮影した写真を題材とした発表を行った。日々の授業では「日本でびっくりした食べ物」「今週のベストショット」「文化体験報告」などのテーマで写真を撮ることを促し、一人数分程度の発表と受講生同士の質疑をし、最終日には、プログラムの集大成として受講生全員がフォトランゲージを中心としたポスター発表を行った。

毎週水曜日には学部2年生による文化体験のワークショップが実施された。また、週に1～2回、武蔵野大学の学内ワークスタディ事業スチューデントジョブ⁵⁾によるたこあげ、スイカ割り、さらに、地元ボランティア団体による茶道や着物体験、江戸資料館見学などの日本文化体験が行われた。

表1 MJSP の概要

期間	2018年7月2日から20日(全19日間)
受講生数と出身	合計 38名 内訳 中国4名(男0名、女4名)、台湾7名(男4名、女3名)、香港15名(男6名、女9名)、韓国4名(男1名、女3名)、豪州6名(男4名、女2名)、マレーシア1名(男0名、女1名)、イギリス1名(男0名、女1名)
コースデザイン	午前：日本語授業(3時間) 午後・週末：見学・体験・自由行動
日本語授業の クラス編成	4クラス編成(J-CATのスコアによる) Fクラス：220以上：10名、Nクラス：150以上：12名、 SUクラス：110～150：9名、SAクラス40～150：7名

3-2. 調査方法

プログラムの開始時と修了時に、受講生38名を対象に、質問紙による調査を実施し、日本語使用と日本語学習に対する意識の変化とコースやフォトランゲージの効果を検証した。質問紙は、受講生の日本語学習法などを5段階のリッカード法で問う選択肢項目(事前17、事後14)と、日本語学習法や学習についての期待(事前)やプログラム後の成果(事後)を記述式で問う記述式項目(事前3、事後7)から構成されている。初級学習者もいるため設問には中国語訳と英語訳が付いている。日本語使用と日本語学習に対する意識の変化の傾向については、選択肢回答の事前事後のスコアを対応のあるt検定により平均値に差があるかどうか分析した。また、コース・フォトランゲージの効果については、記述回答を、計量テキスト分析ソフト・KH Coder.3を用いて分析した。(質問紙は資料として掲載)

4. 結果

4-1. 日本語使用・学習に対する意識変化

日本語使用・学習についての設問のうち事前事後で質問が同じ11項目について比較した結果について述べる。

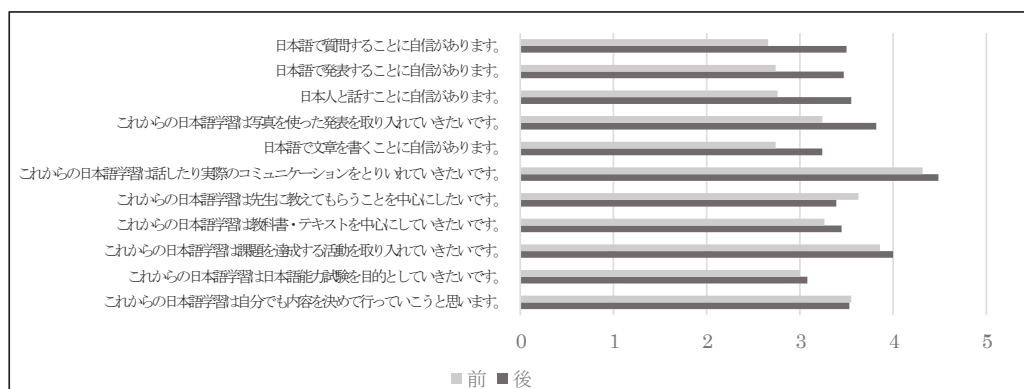


図1 日本語使用・学習に対する意識変化

図1は前後の回答(平均値)の比較を示したものである。日本語に対する自信(質問する、話す、発表する、書く)についての質問項目は前後での変化が他の質問項目と比べて大きい。「これからの日本語学習は実際のコミュニケーションを取り入れていきたいです」は、事前事後の平均値はそれぞれ4.32、4.39で、ともに高く日本語学習に対するコミュニケーション重視が窺われる。

表2 日本語使用・学習に対する意識変化

番号	質問	事前		事後		p 値	
		平均	標準偏差	平均	標準偏差		
15	9	日本語で質問することに自信があります。	2.66	0.90	3.50	0.99	0.00002**
14	8	日本語で発表することに自信があります。	2.74	1.02	3.47	0.99	0.00022**
16	10	日本人と話すことに自信があります。	2.76	0.90	3.55	0.91	0.00022**
10	4	これからの日本語学習は写真を使った発表を取り入れていきたいです。	3.24	0.93	3.82	0.97	0.00316**
17	11	日本語で文章を書くことに自信があります。	2.74	0.99	3.24	1.01	0.00409**
8	2	これからの日本語学習は話したり実際のコミュニケーションを取り入れていきたいです。	4.32	0.69	4.49	0.83	0.10923
12	6	これからの日本語学習は先生に教えてもらうことを中心にしたいです。	3.63	0.84	3.39	1.09	0.21188
7	1	これからの日本語学習は教科書・テキストを中心にしていきたいです	3.26	0.78	3.45	1.04	0.24176
9	3	これからの日本語学習は課題を達成する活動を取り入れていきたいです。	3.86	0.74	4.00	0.95	0.40356
11	5	これからの日本語学習は日本語能力試験を目的としていきたいです。	3.00	1.17	3.08	0.93	0.71919
13	7	これからの日本語学習は自分でも内容を決めて行っていいと思います。	3.55	1.04	3.53	1.12	0.88117

** p < 0.01

表2のとおり事前事後の対応のあるt検定の結果、プログラム前後で有意差が見られたのは、「日本語で質問することに自信があります」、「日本人と話すことに自信があります」、「日本語で発表することに自信があります」、「日本語で文章を書くことに自信があります」、「これからの日本語学習は写真を取り入れていきたいです」の5項目であった。

プログラムを通して「質問する、話す、発表する、書く」という自ら発信することに対する自信を獲得していること、また、フォトランゲージに対して肯定的に評価していることがわかる。

4-2. コース、フォトランゲージ活動に対する評価

4-2-1. 分析方法

プログラム後の成果(事後)質問のうち、質問2「日本語授業でよかったことは何ですか」、質問4「日本語の授業で行ったフォトランゲージを通して学んだこと、感じたことは何ですか」、質問6「日本に来て体験したこと(文化体験を含む)と日本語授業のつながりについて感じたことを書いてください」に対する自由記述について計量テキスト分析ソフト・KH Coder.3を用いて分析を行った。

本稿の受講生の記述は日本語の習熟度に幅があるため、母語もしくは日本語より得意な第二言語である英語や中国語で記入された記述があった。また、日本語での記述にも明らかに誤った表記も含まれていた。そのため、本来データに手を加えることは望ましくないが、分析の前処理として、中国語・英語については翻訳をし複数人で確認、誤表記については、カタカナ語彙の誤記や同一の事柄についての表記のゆれ(例:日本の文化、日本文化)が別項目としてカウントされることが分析過程で確認されたことから、実態に即した傾向を掴むため、同一内容のものについては表記の統一を行った。

KH Coder.3にテキストを取り込むと、概要として文の総数、総抽出語数(使用)、異なり語数(使用)が集計される(表3参照)。本分析はKH Coder.3が提供する語の共起を探索する手法のうち、語の出現回数と語の共起をもとに得られる共起ネットワークの図を採用した。

共起ネットワークの図は出現語とJaccardで計測された類似性速度を表す線で描かれる。語の頻出度は円の大ききで示されており、線で結ばれている語は関係性があり太い線ほど強い共起関係があることを示される。また、共起のまとまりは「Subgraph」として色分けされる。(樋口 2018a)

なお、本分析の記述に当たっては「集計結果だけを見るのでは多くの場合は不十分」「もとのテキスト中で語がどのように使われていたかを確認が必要」(樋口 2018b)であるとされるため、原文を引用した。

表3 コース評価・フォトランゲージに対する自由記述の概要

質問	総抽出語数(使用)	異なり語数(使用)	文の総数
質問2: MJSPの日本語授業でよかったこと、役に立ったことは何ですか。	1032(430)	283(204)	80
質問4: 日本語の授業で行ったフォトランゲージを通して学んだこと、感じたことは何ですか。	941(394)	244(176)	65
質問6: 日本に来て体験したこと(文化体験を含む)と日本語授業のつながりについて感じたことを書いてください。	941(397)	274(200)	68

4-2-2. 分析結果

1) MJSP の日本語授業でよかったこと、役に立ったこと (事後質問 2)

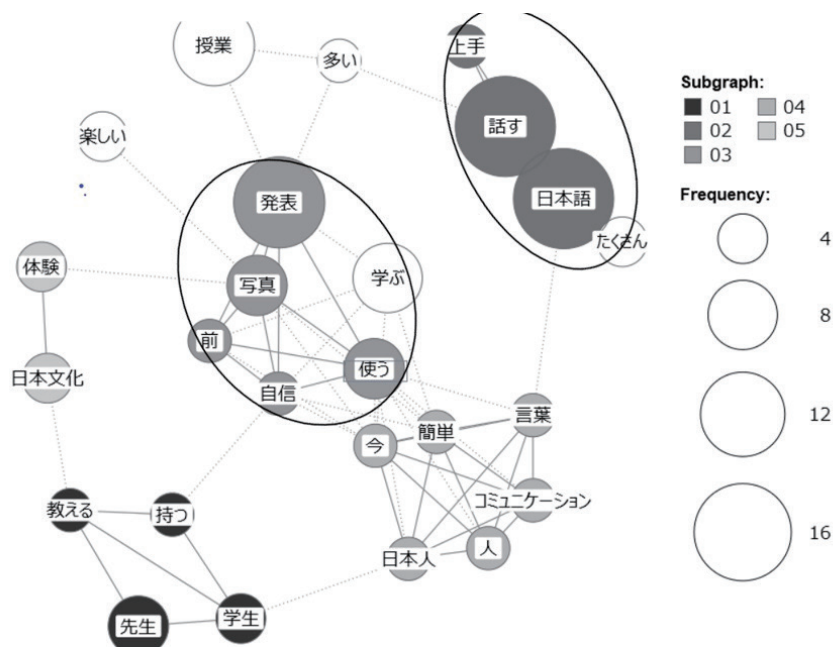


図2 質問2の共起ネットワーク

① 「日本語・話す」

ネットワークの図から、受講者は「日本語」と「話す」ことについて強く共起した記述をしていることがわかる。原文では

- ・自分が香港であり日本語を使っていませんから、ここでいっぱい話すことができます。
- ・日本語を話し時間が多いでした。
- ・プレゼンテーションは私の日本語を話すことはもっと上手になります。

といった、授業で日本語を話す機会が持てたこと、話すことで日本語の上達を感じたことを評価した記述が確認された。

② 「写真・発表」

「写真」「発表」の共起のまとまりも確認された。

- ・写真を使って発表する、もっと分かりやすいです。
- ・みんなの前で写真を使って発表するのは本当に自信が強くなりました。
- ・発表するときどんどん質問して発表した人とコミュニケーションする。

と写真を使った発表タスクを評価する記述があった。

受講生は、日本語を話すことと、写真を使った発表の二点について、「よかった」「役に立った」と評価していることが分かった。

3) 日本に来て体験したこと(文化体験を含む)と日本語授業のつながりについて感じたこと(事後質問6)

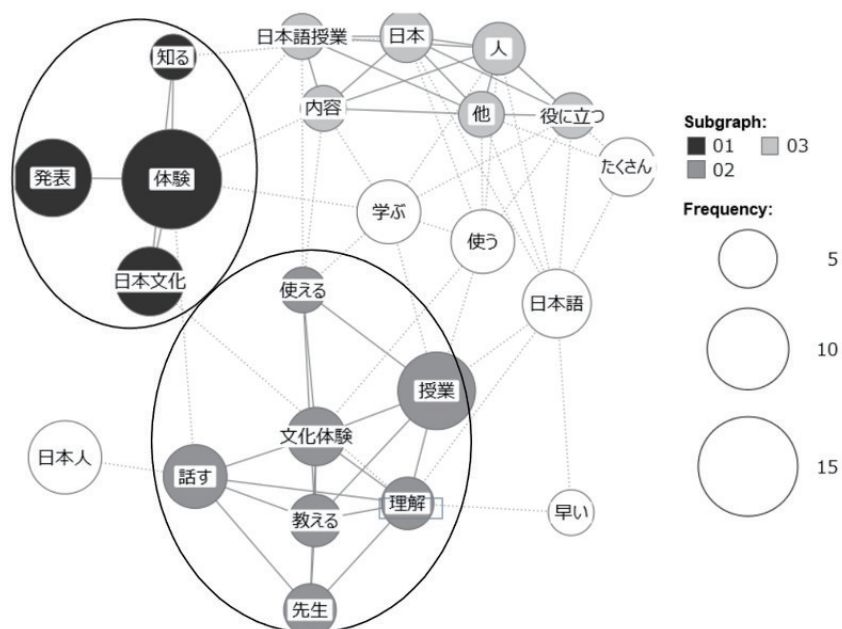


図4 質問6の共起ネットワーク

ネットワーク図から「体験・発表」の共起のまとまりと「授業・文化体験」のまとまりが確認された。

①「体験・発表」

原文を見ると

- ・ 体験や楽しんだことを発表するのはとっても話しやすいです。
- ・ 文化体験の写真を使って、クラスで発表しました。いいチャンスです。
- ・ 体験したことを他の人に伝えることは日本語授業の内容の一部という文化体験と教室活動のつながりがわかる記述が確認された。

②「授業・文化体験」

原文を見ると

- ・ 文化の中で体験すると学習はより早い。
 - ・ 授業で先生は基本的な対話を教えてくれた、もともと私は50音しかできなかったが、今は自己紹介、道聞き、物の説明、全部生活に近いもので先生が教えてくれたもの、文化体験とワークショップでも、そのおかげで彼らが何を話しているか理解できた！(原文中国語)
- など MJSP の TBLT の授業効果についての記述が確認された。

これらのまとまりから、受講生は体験を発表することで MJSP の特徴となる教室内外のつながりを感じていること、また、授業で扱ったことが、課外活動で活かされていることが窺えた。

5. 考察

選択肢質問の結果、プログラム前後での伸びに有意差があったのは日本語の発信に対する自信についての項目であった。MJSP2018を通じて受講生が日本語の発信に対して自信を獲得したことが確認された。また、自由記述の内容からは、日本語を話すことと写真を使った発表が「よかった」「役に立った」と評価され、自信を獲得していること、また、体験を発表することで教室内外のつながりを感じていることが明らかとなった。

これらの結果から、MJSP2018受講生は写真を使って日本語を話すフォトランゲージを通じ、プログラムが目指している教室内外のつながりを実際に体感し、日本語で話すことへの「自信」を獲得したと認識していることが分かった。

冒頭に述べたように、短期プログラムが増え、それぞれが試行錯誤をしている中、海外からの受講生の多くが母国では得る機会の少ない「日本語発信」をできるだけ目標言語環境の体験からつなげ、相互発信の機会を創り、それが自信につながるというプログラムの社会的・教育的意義は十分にあると考えられるのではないだろうか。

6. 結論

教室外の活動・体験と、教室内の活動による学びの相互的な関連づけを目指して行ったフォトランゲージという手法を軸に、学習効果を高めるようデザインしたコースの実施が、短期プログラムの受講生に与えた効果を、MJSP 2018 受講生へのアンケート結果から検証した。

調査結果の分析から、MJSP2018受講生は、フォトランゲージを肯定的に評価し、フォトランゲージによって日本語で発信することへの「自信」を獲得したと述べている。

また、教室外の活動を教室内で発表するつながりについても「つながりの言及」がみられていることが分かった。

2015年度からプログラムを実施、2016年度から3年間にわたる継続的な研究と実践のPDCAによりプログラム内容が改善され、本研究では実践の学習効果を検証することができた。実践と研究の有機的相互作用による実践の改善にはきりがなが、2018年度はワーキンググループを立ち上げ、担当講師を充実させることができたことも、研究成果の延長であると考えられる。プログラムが続く限り、実践と研究のPDCAが重ねられることを期待したい。

注

- 1) 平成 21 年度、平成 28 年度の数值共、「2 週間未満」と「2 週間以上 1 カ月」の留学生数を合計した。
- 2) 教育、研究、異文化体験、語学の実地習得等を目的として、大学等における学則上の設置科目の受講に伴って実施する、または学則上の設置科目ではないもののサーティフィケート(受講証明証)等の発行を伴って実施する、6 か月未満の学位取得を目的としない短期教育プログラム。『日本学生支援機構ホームページ』による。
- 3) 写真やイラスト等を使って行うアクティビティ(学習活動)。開発教育国際理解教育などで活用されているがここでは提示された資料をよく観察し背景となっている状況に共感するとともにその資料に籠められた意味を探り出し参加者相互で自らの気づきや発見を分かちあうもの。『開発教育・国際理解教育ハンドブック』による。
- 4) このうち日本語授業が実施されたのは、週末などを除く 12 日間であった。
- 5) 学修意欲があるにも関わらず経済的な理由で学外アルバイト等に時間を取られてしまい、十分な学修時間を確保できないという学生を対象に、学内での仕事を紹介する取り組み。

参考文献

- (1) 磯野英治・近藤佐知彦・宮原啓造(2016)「2015 年度短期日本語教育プログラムの実施と新たなプログラムの構築」『多文化社会と留学生交流：大阪大学国際教育交流センター研究論集』20:9-40
- (2) 野村琴菜・ケッチャム千香子・高橋桂子・難波房枝・堀井恵子(2017)「短期ジャパンスタディプログラムにおける受講生の意識の変容」『日本語教育学会中部支部集会予稿集』2-6
- (3) 野村琴菜・高橋桂子・難波房枝・矢野和歌子・堀井恵子(2018)「受講生へのアンケート結果からみた 短期ジャパンスタディプログラムの意義 —アクティブラーニングを中心とした実践から—」『2018 年度日本語教育学会春季大会予稿集』298-303
- (4) 樋口耕一(2018a)『KH Coder 3 リファレンス・マニュアル』
- (5) 樋口耕一(2018b)「KH Coder 掲示板」
http://koichi.nihon.to/cgi-bin/bbs_khn/khcf.cgi?no=2126&mode=allread#2126 (最終閲覧日 2018 年 8 月 22 日)
- (6) 藤森弘子・宮城徹・中村彰・荒川洋平(2013)「異文化体験型シラバスに基づいたショートステイプログラム 2012 の実践と課題」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』No.39:137-152
- (7) 日本学生機構(2011)『平成 21 年度短期教育プログラムによる外国人受け入れ状況調査結果』独立行政法人日本学生支援機構
http://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_p/data10.html (最終閲覧日 2018 年 8 月 25 日)
- (8) 日本学生機構(2018)『平成 28 年度短期教育プログラムによる外国人受け入れ状況調査結果』独立行政法人日本学生支援機構
http://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_p/data17.html (最終閲覧日 2018 年 8 月 25 日)

日本語学習についてのアンケート
关于日语学习的问卷调查 Questionnaire about Japanese learning

名前 name

あなたの日本語学習を振り返り、答えてください。Please reflect on your Japanese learning and answer.

質問1：質問文を読み、最も適切な回答に○を付けてください。

请阅读以下问题，在你认为最恰当的回答上画○。Please read questionnaire, and circle the most appropriate one.

5（非常にそう思う/非常同意/strongly agree）、4（そう思う/同意/agree）、3（どちらとも言えない/说不定/neither agree nor disagree）、2（あまりそう思わない/不同意/not agree）、1（全くそう思わない/非常不同意/strongly not agree）

	非常に そう思う	そう思う	どちらとも いえない	あまりそ う思わな い	全くそ う思わな い
1. これまでの日本語学習は教科書・テキストが多かったです。 I have been studying Japanese mostly using textbook. 至今为止主要通过教材学习日语。	5	4	3	2	1
2. これまでの日本語学習は話したり実際のコミュニケーションをすることが多かったです。 I have been studying Japanese by talking or communicating with others. 至今为止经常通过说日语和实际的日语交流学习日语。	5	4	3	2	1
3. これまでの日本語学習は課題を達成する活動が多かったです。 I have been studying Japanese in task based learning class. 至今为止经常通过课堂活动完成课堂任务来学习日语。	5	4	3	2	1
4. これまでの日本語学習は写真を使った発表が多かったです。 I have been studying Japanese by having presentation with photos. 至今为止的日语学习中经常使用照片进行发表。	5	4	3	2	1
5. これまでの日本語学習は日本語能力試験を目的としたものが多かったです。 I have been studying Japanese for Japanese Language Proficiency Test. 至今为止的日语学习主要以日语能力考试为目的。	5	4	3	2	1
6. これまでの日本語学習は先生に教えてもらうことが多かったです。 I have been learning Japanese mostly instructed by teachers. 至今为止的日语学习主要以老师的授课为主。	5	4	3	2	1
7. これからの日本語学習は教科書・テキストを中心にしていきたいです。 I want to use textbook more for studying Japanese from now on. 今后想主要通过教材学习日语。	5	4	3	2	1
8. これからの日本語学習は話したり実際のコミュニケーションをとり入れていきたいです。 I want to communicate more with others for studying Japanese. 今后想经常通过说日语和实际的日语交流学习日语。	5	4	3	2	1
9. これからの日本語学習は課題を達成する活動を取り入れていきたいです。 I want to Japanese in a task based learning class. 今后想经常通过课堂活动完成课堂任务来学习日语。	5	4	3	2	1
10. これからの日本語学習は写真を使った発表を取り入れていきたいです。 I want to have presentation more using photos for studying Japanese. 今后的日语学习中想经常使用照片进行发表。	5	4	3	2	1
11. これからの日本語学習は日本語能力試験を目的としていきたいです。 I want to study for Japanese Language Proficiency Test from now on. 今后的日语学习想主要以日语能力考试为目的。	5	4	3	2	1
12. これからの日本語学習は先生に教えてもらうことを中心にしたいです。 I want to learn Japanese in teacher-directed settings. 今后的日语学习想主要以老师的授课为主。	5	4	3	2	1
13. これからの日本語学習は自分でも内容を決めて行っていこうと思います。 I want to learn Japanese in self-directed settings. 今后的日语学习想自己制定学习计划。	5	4	3	2	1
14. 日本語で発表することに自信があります。 I have confidence in having presenting in Japanese. 我对用日语发表有信心。	5	4	3	2	1
15. 日本語で質問することに自信があります。 I have confidence in asking questions in Japanese. 我对用日语提问有信心。	5	4	3	2	1
16. 日本人と話すことに自信があります。 I have confidence talking with Japanese people. 我对和日本人聊天有信心。	5	4	3	2	1
17. 日本語で文章を書くことに自信があります。 I have confidence in writing essays in Japanese. 我对用日语写文章有信心。	5	4	3	2	1

MJSPについて質問します。できるだけたくさん書いてください。

質問2：インターネットでよく見ている日本語のサイトは何ですか。

Please write Japanese sites which you often visit. 请列举出现在你经常看的日语网站。

質問3：その他なんでも自由に書いてください。（目標、期待することなど）

Please write anything else freely. (Goals, expectations, etc.) 如果对MJSP有什么目标，期待等之类的话，也请自由写出。

ご協力ありがとうございました。

日本語学習についてのアンケート
关于日语学习的问卷调查 Questionnaire about Japanese learning

名前 name

あなたの日本語学習を振り返り、答えてください。Please reflect on your Japanese learning and answer.

質問1：質問文を読み、最も適切な回答に○を付けてください。

请阅读以下问题，在你认为最恰当的回答上画○。Please read questionnaire, and circle the most appropriate one.

- 5 (非常にそう思う/非常同意/strongly agree), 4 (そう思う/同意/agree), 3 (どちらとも言えない/说不定/neither agree nor disagree), 2 (あまりそう思わない/不同意/disagree), 1 (全くそう思わない/非常不同意/strongly disagree)

	非常に そう思う	そう思う	どちら とも 言えない	あまり そう 思わ ない	全く そう 思わ ない
1. これからの日本語学習は教科書・テキストを中心にしていきたいです。 I want to use textbook more for studying Japanese from now on. 今后想主要通过教材学习日语。	5	4	3	2	1
2. これからの日本語学習は話したり実際のコミュニケーションをとりしていきたいです。 I want to communicate more with others for studying Japanese. 今后想经常通过说日语和实际的日语交流学习日语。	5	4	3	2	1
3. これからの日本語学習は課題を達成する活動を取り入れていきたいです。 I want to Japanese in a task based learning class. 今后想经常通过课题活动完成课堂任务来学习日语。	5	4	3	2	1
4. これからの日本語学習は写真を使った発表を取り入れていきたいです。 I want to have presentation more using photos for studing Japanese. 今后的日语学习中经常使用照片进行发表。	5	4	3	2	1
5. これからの日本語学習は日本語能力試験を目的としていきたいです。 I want to study for Japanese Language Proficiency Test from now on. 今后的日语学习主要以日语能力考试为目的。	5	4	3	2	1
6. これからの日本語学習は先生に教えてもらうことを中心にしたいです。 I want to learn Japanese in teacher-directed settings. 今后的日语学习主要以老师的授课为主。	5	4	3	2	1
7. これからの日本語学習は自分でも内容を決めて行っていこうと思います。 I want to learn Japanese in self-directed settings. 今后的日语学习想自己制定学习计划。	5	4	3	2	1
8. 日本語で発表することに自信があります。 I have confidence presenting in Japanese. 我对用日语发表有信心。	5	4	3	2	1
9. 日本語で質問することに自信があります。 I have confidence in asking questions in Japanese. 我对用日语提问有信心。	5	4	3	2	1
10. 日本人と話すことに自信があります。 I have confidence talking with Japanese people. 我对和日本人聊天有信心。	5	4	3	2	1
11. 日本語で文章を書くことに自信があります。 I have confidences in writing essays in Japanese. 我对用日语写文章有信心。	5	4	3	2	1
12. 写真があると発表がしやすいです。 It's easier to do a presentation with using photos. 如果有照片的话，我发表时会比较容易。	5	4	3	2	1
13. 写真があると発表を理解しやすいです。 It's easier to understand a presentation when photos are used. 如果有照片的话，我听讲时会比较容易理解。	5	4	3	2	1
14. 文化体験と日本語の授業のつながりを感じました。 I felt connection between culture experiences and Japanese class. 我感受到了文化体验与日语课之间的关联。	5	4	3	2	1

MJSPについて質問します。できるだけたくさん書いてください。

Questions below will be about MJSP. Please write as much as possible.
下面是关于MJSP的提问。请尽可能多地回答一些。

質問2：MJSPの日本語授業でよかったこと、役に立ったことは何ですか。

Please write what you liked and you felt it useful in MJSP Japanese class. 请列举出MJSP课堂的优点以及感到对自己有帮助的地方。

質問3：MJSPの日本語授業で残念だったことは何ですか。

Please write disappointing parts you felt during MJSP Japanese class. 请列举出对MJSP课堂不满意的地方。

質問4：日本語の授業で行ったフォトランゲージを通して学んだこと、感じたことは何ですか。

Please write about what you felt and learned through photo language in Japanese class.
通过日语课堂的介绍照片的活动，你学到了什么？感受到了什么？

質問5：水曜日のワークショップで良かったことと残念だったことを両方書いてください。

Please write both good and bad points about the workshop on Wednesday.
请列举星期三的workshop的好处和需要改进的地方。

質問6：日本に来て体験したこと（文化体験を含む）と日本語授業のつながりについて感じたことを書いてください。

Was there any connection between what you experienced after coming to Japan (including cultural experiences) and what you learned in Japanese class?

質問7：その他なんでも自由に書いてください。（感想、メッセージ、決意など）

Please write anything else freely. (comment, message, determination etc.) 如果对MJSP其他的感想、留言、决心之类的话，也请自由写出。

ご協力ありがとうございました。